



日本共産党前都議会議員 《東京民報折込み版》

そねはじめレポート

2012年 8月1日発行 第 50 号

そねはじめ事務所

114-0032

北区中十条2-11-6

Tel:3907-1135

Fax:3906-3225

平塚神社わきから
無量寺突切り旧外
語大裏ぬけ中山道
へ現道無しの1.4キロ

不燃化理由にお寺・緑を踏みにじるな

81号線のおよその路線位置 (そね作成)



突然復活した幅30mの都道(補助81号)計画

★区議会で報告聞きびっくり

地震時の火災を防ぐ延焼防止道路として都は6月末23の「特定整備路線」候補を選定。

★本都区議よびかけで懇談会

本田正則区議とそねはじめ前都議は7月28日、滝野川会館で沿道住民の意見を聞く懇談会を開き、約30人が参加しました。

7月4日区議会地域開発委員会では北区は、赤羽駅南側を東西に横断する補助86号線、滝野川会館近くの交差点から中山道までを結ぶ補助81号線が選ばれたと報告しました。

一部開通している86号線に比べ、元になる道路も一切なく半世紀以上計画のまま眠っていた補助81号線が緊急整備の対象

「共産党以外誰も教えてくれない。意見も聞かず決めるのはひどい」「住宅密集地でもないのに無量寺と墓地を全部立ち退かせ、貴重な緑を削って自動車道路をなぜ通すのか」と疑問や怒りが噴出・・・

★地元知る議員なら賛成できぬ

そね前都議は、「都の防災対策は、消防や学校避難所、住民の防災活動には金をけちる一方で、極端な道路優先の計画なのが特徴です。」

『強靱な国土』構想にのって反対の多い道路計画を「防災」の名で押し通すチャンスにしたいようだ。

しかし81号線計画は、千数百軒立ち退かされ、お寺や緑を潰すなどあまりに乱暴で、地元を知る議員なら賛成できないはず。最終決定前に見直しさせよう」と訴えました。

堀船4丁目隅田川べりの階段 手すりがあれば風で転ばずにすむ

そね前都議が階段を調べに行くと、通りかかった住民からも「風の時は階段が怖い」と話されました。



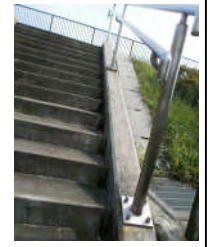
堀船の方から「最近隅田川沿いにきれいなテラスができたが、団地から登っていく階段に手すりがなく、川風が強いと転んでけがするお年寄りが多い。何とか手すりをつけて」と要望がありました。

◆山崎区議とそね前都議で調査し、営繕部長に要望◆

そねはじめ前都議と山崎たい子区議が早速現場に行くと、少し上流の階段には手すりがありますが、4丁目の階段は団地と川沿いの管理道路の間にあり誰が工事すべきか不明でした。

そね前都議らは、近隣住民36名の陳情署名を届け、都営団地を管理する住宅供給公社や建設局の事務所とも何度か話し合い、都営住宅営繕部長に、工事の促進を要望しました。

上流の手すりつき階段



★★シリーズ消費増税とたたかう 円高と消費税で息の根が止められる」

■田端機工街「主人の話」
七月に訪問した、田端新町の金属機械の間屋が集まる「機工街」でプレス加工の工場主から意見を聞きました。

「消費増税の影響はただ大きいだけじゃない。息の根が止まる話だ。二〇年前から海外に技術が流れてだんだん水準が上がってきた。賃金が一〇倍以上開いているから勝負にならない。最近の円高で数少ない輸出先も途絶えた。どんなに工夫したって徹夜したって安い部品にはかなわない。」

■やせ細った国内需要も
「かろうじて国内消費向け家庭用の部品で食いつないでいるが消費税あがればゲームオーバーだ。」

7・28 脱原発集会のようす
次は9月1日に“さよなら原発 in 北とびあ”があります



そねはじめ前都議も参加しました

7・29脱原発国会包囲網づくりの集会。国会を2重3重に取り巻いたと宣言されました。



どうする? 石原都政

尖閣諸島買い取り

「海洋資源調査」など理屈をつけ十二月都議会に提出か?

5月から石原知事独断で尖閣諸島を買い取る検討が始まり13億円以上の募金も集めています。遠隔地の買収を認められる例外的「理由」として「海洋資源調査」などを持ち出し議案提出する可能性があります。

しかし知事の本音が中国と日本の政府への挑発にあることは明瞭で、どんな「理由」をつけても国際的に東京都の信頼を失墜することになりかねません。

「都が直接関与しえない外交問題に自治体として介入してよいのか」という都議会の見識が問われます。

そねはじめ交友録<その四十四>

被爆者の悲運に泣くより自ら運命を開いた飯田マリ子さん

私が民主運動に本格的に参加したのは、北区浮間の化学工場独身寮に住み始めてからの民主青年同盟と原水禁運動でした。

70年当時、被爆者の描いた絵を集めた原爆展でショックを受け、童心社のその画集を買い、ページを切ってパネルを作り原水禁署名を一人で集めたこともあります。

民青の教育部長として被爆者の体験を聞こうと招いたのが、当時の服部マリ子さんでした。話が終り質問タイムで「被爆者は結婚できない宿命なんですか」と口さがない同盟員が聞くと、マリ子さんはにっこり笑って「被爆者も人間として結婚できます。私自身も、機会があれば結婚したいと思っています」と言われました。

後に、マリ子さんが結婚されたころ、私は一時統一が実現した原水禁大会の北区事務局におり、のぼりやポスター、ビラ、バッジを作成しました。私の切り絵の最初の作品は被爆少女でした。飯田さんは被爆者が社会的差別を乗り越え、自ら運命を切り開けるよう、北区のみならず東京の被爆者団体「東友会」会長として頑張っています。

08年7月平和行進で共に歩くそね都議(当時)と飯田マリ子さん(中央)



最初の切り絵。山端庸介が長崎で撮影した呆然とうずくまる少女を描いたもの。

